

半導体漫遊記

22

湯之上隆

アクセサリのように身に着けられて、安価で、子供にも分かりやすい(たまごっちのようない)放射線検知器がでないかという記事を、以前執筆した

(6月7日の伊勢新聞、『半導体漫遊記(14)』)。

すると、ぜひその事業を一緒にやりたいという賛同者が現れた。また、放射線被ばくの健康問題などに取り組んでいるNPO安全安心科学アカデミー理事長の辻本忠先生が、たまごっち型放射線検出器の開発に全面的に協力して下さるようになった。さらに、この事業を支援したいという

放射線検出器の会社発足

性能よく安価な製品を

このようなことが2カ月の間にとんとん拍子に進んで行き、とうとう、放射線検出器の新しい会社、(株)エアー・シャツジを設立することになった。筆者は取扱主任者の国家資格が必要となる。そこで、技術担当である筆者は、財団法人電子科

検出器を開発して製造する際、放射線源の取り扱いが必要になる。放射線源は、開発した検出器の校正に用いる。この校正が正確になされないと、製造した検出器が正しく動かない。現在、世の中に多数出回っている中国製検出器の精度が問題になっているが、

この講習会場で、福島第一原発から30キロの地点にある南相馬市の原町商工会議所青年部は、なかなか難しかったが、幸い一発で合格の但野英治さんと親し



図2 放射線取扱主任者免状

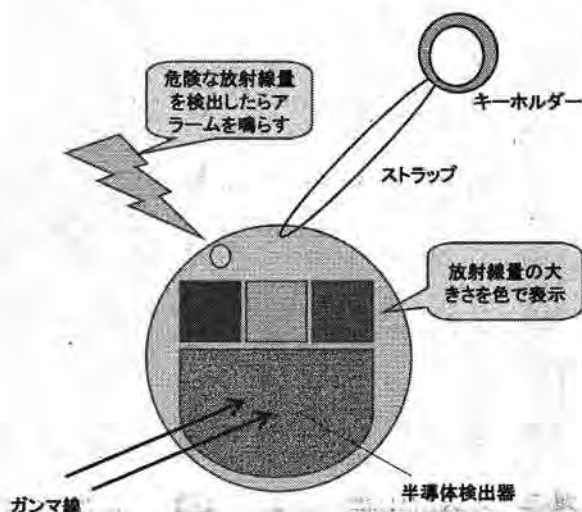


図1 たまごっち型放射線検出器

て本間に役に立つ、安価な、放射線検出器を作らねばと決意を新たにしました。そのために、一度、南相馬市をこの目で見てみる必要がある。そこで、但野さんに連絡を取り、9月18、19日、南相馬市を訪問した。その詳細は、次回、報告する。(半導体技術者・社会学者)